

異文化に学び 日本文化を再発見する

磯野（武重）玲子（69期）

オレゴンに住んで40年たつが、よく聞かれる質問がある。アメリカに渡った動機・目的は何か、という一言では答えにくい質問。でも、あえて一言でいうと、異文化の多様な価値観を持つた人々に接し、自分の価値観のものさしを大きくしたかったから、ということであろう。異文化間のコミュニケーションを専攻したので、アメリカ人の中でも移民や家庭環境などによって考え方や驚くほどの違いがあることが分かり、興味深い日々の積み重ねだった。こうして、アメリカ人の素晴らしいところを学ぶとともに、外から日本を見る目ともなり、改めて日本文化の良さを再認識した。

英語を学び、マスターしていく過程で、自分の知的レベルと語学力の差にもどかしさを覚える時期がある。その経験を地方のテレビ番組でスピーチした際、数人のアメリカ人が、外国人学生の苦労がよく分かつたよ、新しいことを学んだ、とかコメントしてくれた。同じ立場の外国人学生たちからも、よくぞ自分たちの精神的苦労

をうまく表現してくれた、と感謝された。このとき、ああ、この国では、ポジティブな印象を持つたときには、ちゃんとコメントしてくれるんだ、どうれしい気持ちになつた。

お葬式のセレモニーを



ポートランド市内を流れるウィラメット川のほとりで

で決めた家風のこと。日本でも親子の愛情は変わらないが、このように言う人は少ない。お互いに分かっていることは言わなくても通じると思って口に出さないのが日本人。分かっていても大切なことは口に出すのがアメリカ人。大切な人に大切な言葉を言えるのは、すてきだ。

がどうございました。

昨今、日本独自の風景や文化、気質に触れたいと日本へ来る海外旅行者の急増はとてもうれしい。これは、日本人自身が、古くから守ってきた文化の貴重さに気づき、誇りに思つて大切にする人が増えている証拠だと思う。

東海道53次の旅（6）

藤枝から二島

清水計枝（64期）

2015年10月31日、藤枝駅を目標す。途中、追分羊かん屋で集まり、岡部宿へ。宿場入口に一息入れる。江尻宿は戦争で米軍松並木が残る。旧家が残る宿場を歩く。本陣は門と土蔵を残し、公園に。大旅籠柏屋は歴史資料館になつていている。

岡部川沿いの道を歩き、宇津ノ谷峠へ。落ち葉と小石の交じる急な坂道を上り、間の宿・宇津ノ谷峠へ。落ち葉と小石の交じる

坂道を上り、間の宿・宇津ノ谷峠へ。落ち葉と小石の交じる重の浮世絵にも描かれた、わらぶき屋根の丁字屋で名物・とろろ汁定食を食べた。

安倍川を渡り、府中宿へ。大

道芸のイベントで街じゅう人である由井の桜エビ通りを歩き由井ふれている。翌日、府中宿を巡り、宿へ。本陣跡は公園になつていて、

駿府城跡と久能山東照宮を見学。2016年3月12日、蒲原駅から蒲原宿へ。国道が旧東海道を



富士山を背に薩埵峠で

沼津城跡、三枚橋一里塚、伏見一里塚を過ぎ、ようやく三島宿にたどり着く。三島大社に参拝し

て、これから旅の無事を祈つた。

11月26日、静岡駅から江尻宿